

餅搗き

山田真砂年

蔦紅葉陽射しの中をさざなみす
黄落の光りを増幅してゐたる
さるすべりらしく撫でられ夕月夜
檜枯れの切株ましら茸立派
小春日のスマホにものを尋ねをる
けふ与良は小春日和や風すこし
骨董を並べ小春の地べたかな
蓮枯れてけふは明るき陽射しかな
寒禽のジャージャー空を濁らせる
落葉頻り神主の沓音立てて
富士箱根さねさしさがみに冬の靄
冬菊の明るし富士を真正面
富士据ゑて冬耕の背のまろきこと
霜枯や朝日いかにも薄つぺら
水鳥の出払つてをり池たひら
分け入りし山懐に大根畑
じくじくと冬の山田を渡りけり
ラガー等の芝ぼろぼろにスクラムす
ラガー等のジグザグボール追うてをり
十二月となればいろいろ諦める
試しをる杵の軽重雪催ひ
もうもうの湯気の幸せ餅を搗く
餅搗きや搗き手替はれば音変はる
年木積む我が六尺の背丈越え
夕べには大島の灯や実朝忌